

リスニング能力向上のための方略 2

- 実施したリスニングテストとリーディングテストの比較分析から -

宮奥 正道*

A Strategy for Improving Listening Ability 2 Based on the Comparison between Listening Tests and Reading Tests

Masamichi MIYAOKU,

Abstract

Listening ability is very not only basic but also important in language learning. It is pointed out, however, that we, English teachers find it very difficult to teach the way to improve learners' listening ability. In these days a lot of technical colleges have introduced TOEIC and require their students to take some fixed minimum score as the condition for their graduation. In 2006, the listening comprehension test was introduced in the Center Test, the unified entrance examination for high school students and graduates. In addition to these situations, a large number of companies require new employees to take TOEIC and most of examinees have trouble solving listening comprehension problems in the test. In this paper we would like to analyze and compare the result of English listening and reading tests, which students of this college have been taking, and we would also like to propose some ideas in order to improve their listening ability.

Key words: Listening Ability, Listening Test, Reading Test

1 はじめに

英語のリスニングは他の3技能(ライティング、スピーキング、リーディング)と比べて、最も基本的な技能である。それは一見すると受動的な活動のように見えるが、実際に音声聞いて理解に至るまでには、複雑なメカニズムを伴う作業である¹。また、リスニングという活動はライティングやリーディングと異なり、文字を伴わない音声だけに頼る活動であり、しかもその音声は一瞬にして消えていくものである。そのためリスニングの具体的な指導は難しいものがある²。

しかしながら、リスニングはTOEICやTOEFLなどの試験にも見られるように、大変重要視されている。また2006年度の大学入試のセンター試験からリスニング試験が実施されるようになった。さらに、近年、本校の卒業生が就職する多くの企業において、TOEICなどの試験の成績が重要視されてきた。そのため本校においてもリスニング力の向上が、英語教育において重要な教育課題になってきた。筆者はリスニング力の向上のために、入学時から授業中に定期的に小テストとしてリスニングの試験を実施し、学生にリスニング力の重要性を認識させるとともに、その向上にむけて、日々努力するよう促してきた。

本論文に置いては、昨年と今年実施したリスニングテストと、そのリスニングテストに関連したリーディングテストの結果を比較分析して、リスニングの力を向上させるための方略を提案する。

2 研究の目的

昨年の後期から今年の前期まで、現3年生の3学科すべての学生を対象にして、英語のリスニングの力を調べ、さらにその力を伸ばすために、定期的にリスニングの小テストとそれに関連したリーディングの小テストを実施してきた。それらの結果を比較分析し、リスニング力を伸ばすための方略を提案することを目的とする。

*一般科目

3 リスニングテストとリーディングテストの実施方法

リスニングテスト（以下LT）は、1回が7分程度で実施してできる日本英語検定協会の準2級用「Step Up Listening Step 3」を使用した。またリーディングテスト（以下RT）はLTと全く同じテストを全部文字に直して、それをRTとして実施した。LTは2年生の10月から実施し、RTはLTと全く同じ問題であるために、問題の記憶が無くなったと思われる2ヶ月間後に実施を始めた。3年生の7月の時点で、LTは10回、RTは8回実施できた。

このテストは10問からなる問題で、Part 1（4問）、Part 2（3問）、Part 3（3問）の3種類の問題からなっている。いずれも4つの選択肢から1つ選ぶ問題である。Part 1は2人の会話からなっており、それぞれが2回ずつ発話する。2回目の最後の発話として最も適当な発話を4つの選択肢から選ぶ問題である。Part 2は2人の会話を聞いて、その会話に対する質問に4つの選択肢から選ぶ問題である。Part 3はナレーションを聞き、それに対する質問を聞いて4つの選択肢から選ぶ問題である。RTはこれをすべて文字に起こした問題である。LTはPart 1, Part 2, Part 3いずれも回答の選択肢以外は音声だけである。学生がRTの問題を解くときは、終わりの時間をそろえるため、LTで使った音声CDを第2回目のテストより聞かせて回答させた。

4 分析の方法

LT 10回分とRTテスト8回分の平均点を出して、それを基に順位をつけた。全受験者112名の内、上位30名を上位群、中央値（メジアン）を中心に30名を中位群、また下位群は一番下の5名は欠席が多くデータとして不適と判断し、下位の6番目から30名を取り下位群とすることにした。この試験は2年生の後期10月から3年生の前期7月まで実施した試験である。また、それぞれの学生の2年次と3年次を通じたデータを取るために、留年した学生と留学生2名はデータから除外した。

5 テストの結果

Table 1 上位群における1回から8回までのLTとRTの平均点、および平均点の差

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	平均
上位群 LT	8.24	6.17	5.34	5.90	3.90	5.10	5.67	7.75	6.01
上位群 RT	8.69	7.79	6.83	6.07	4.77	6.93	7.27	8.47	7.10
RT - LT	0.45	1.62	1.48	0.17	0.87	1.83	1.60	0.72	1.09

LT、RT共に10点満点

Table 2 中位群における1回から8回までのLTとRTの平均点、及び平均点の差

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	平均
中位群 LT	6.87	4.67	3.83	4.60	3.38	3.76	4.40	5.29	4.60
中位群 RT	7.45	6.17	4.52	5.33	3.83	4.83	5.66	7.73	5.69
RT - LT	0.58	1.50	0.68	0.73	0.45	1.07	1.25	2.48	1.09

LT、RT共に10点満点

Table 3 下位群における1回から8回までのLTとRTの平均点、及び平均点の差

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	平均
下位群 LT	4.07	3.57	4.34	2.86	2.89	2.89	3.13	4.03	3.48
下位群 RT	5.93	4.37	3.53	3.90	3.45	3.71	4.10	4.97	4.25
RT - LT	1.87	0.80	0.57	-0.45	0.59	0.82	0.97	0.93	0.76

LT、RT共に10点満点

LTとRTを比較してみると上位群と中位群ではすべてのテストでRTが良くなっている。しかし下位群においては第4回のテストではLTよりもRTの方が悪くなっている。テストの実施前には、LTでは聞き取れないところがRTでは文字に書いてあるので解消するため、すべてのテストにおいてRTの方が良くなると予想した。しかしながら下位群において第4回はRTの方がLTよりも悪くなってい

る。以下、個々の問題を取り上げて分析する。

6 最も正解率の悪かった問題

最も正解率の悪かった問題の結果を下記に示しながら、その結果の分析してみる。

6.1 Part 1 で最も正解率の悪かった LT の問題

例1 A: Excuse me. Is this your newspaper, Jane?

B: Yes, it is.

A: Do you mind if I borrow it for a while?

B: (4 が正解)

回答 1. Yes, you're right. 2. Yes, you mind it

3. No, I don't borrow it. 4. No, I don't.

Table 4 第3回 No.1 の問題 回答の分布

	全体	上位群	中位群	下位群
1	19.6 (22)	30.0 (9)	23.3 (7)	10.0 (3)
2	33.0 (37)	10.0 (3)	36.7 (11)	46.7 (14)
3	39.3 (44)	50.0 (15)	36.7 (11)	36.7 (11)
4 正解	6.3 (7)	6.7 (2)	3.3 (1)	6.7 (2)
無回答	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)

総受験者数 110 名 欠席 2 名 全体の分母は 112 名

上位群 1 名欠席 各群の分母は 30 名とする。 数字は% () は人数を表している。

Yes で始まる 1 と 2 を選択した者が多いということから判断すると、正解率が低かった理由は 3 行目の Do you mind ~? の文章が聞き取れなかったというよりは、この文章の中で mind 意味が理解できなかったか、その答え方を知らなかった者が多かったためであると推察できる。また 3 の No, I don't borrow it. と答えた者が上位群で 50.0% (15 名) もいたが、これは文章の意味が理解できていないことを表していると思われる。

6.2 Part 2 で最も正解率の悪かった LT の問題

例2 A: Hi, Mike. Are you coming?

B: Yes, I'm almost ready. I'm just putting on my shirt.

A: OK. Lisa's here, too. We'll wait for you outside.

B: Thanks. I'll be there in a minute.

Question: What is Mike doing? (3 が正解)

回答 1. He's taking off his shirt. 2. He's standing outside.

3. He's getting dressed. 4. He's waiting for Lisa.

Table 5 第5回 No.5 の問題 回答の分布

	全体	上位群	中位群	下位群
1	47.3 (53)	56.7 (17)	50.0 (15)	43.3 (13)
2	25.9 (29)	20.0 (6)	20.0 (6)	33.3 (10)
3 正解	8.9 (10)	3.3 (1)	13.3 (4)	6.7 (2)
4	14.3 (16)	16.7 (5)	10.0 (3)	13.8 (4)
無回答	0.9 (1)	0.0 (0)	3.3 (1)	0.0 (0)

総受験者数 109 名 欠席者 3 名 全体の分母は 112 名

上位群 1 名、中位群 1 名 下位群 1 名が欠席 各群の分母は 30 名とする

数字は% () は人数を表している。

正答率は上位群 3.3%(1 名)、中位群 13.3%(4 名)、下位群 6.7%(2 名)となっていて、上位群が正答率が最も悪く通例の正解率の逆転現象が起きている。正解は 3 の He's getting dressed.となっていて元

の表現を変えてあるために、この表現が理解できなければ解くことができない。それでも、I'm just putting on my shirt.を聴き取ることができれば、正解は消去法で選ぶことができるはずである。しかし、1の He's getting off his shirt.と全く反対の意味の解答を選んでいるものが上位群で 56.7% (17 名)、中位群で 50.0%(15 名)、下位群で 43.3%(13 名)と全群にわたり最も多い。この問題は get dressed という表現を知らないために解くことができなかった者が多いと思われる。

6.3 Part 3 で最も正解率の悪かった L T の問題

例 3 Bill is a high school student, but his sister Nancy is only six years old. Their mother works in the afternoon, so Bill usually picks Nancy up after school. He often takes her to the park and plays with her for an hour before going home. He seldom begins his homework before dinner.

Question: What does Bill usually do in the afternoon? (4 が正解)

- 回答 1. He begins his homework. 2. He goes to the park with his friends.
3. He picks up his mother after work 4. He takes care of his sister.

Table 6 第 3 回 No.10 の問題 回答の分布

	全 体	上位群	中位群	下位群
1	25.9 (29)	13.3 (4)	23.3 (7)	33.3 (10)
2	22.3 (25)	30.0 (9)	23.3 (7)	20.0 (6)
3	34.8 (39)	26.7 (8)	43.3 (13)	33.3 (10)
4 正解	15.2 (17)	26.7 (8)	10.0 (3)	13.3 (4)
無回答	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)

受験者総数 110 名 欠席者 2 名 母集団は 112 名 上位群 1 名欠席
各群の分母は 30 名とする。 数字は% () は人数を表している。

この問題は 2 行～ 3 行目の He often takes her to the park and plays with her for an hour before going home.の文章を理解すればできる問題である。しかし、4 の正解に take care of という表現が使っているために、この表現の意味を知らないためにできなかったものと思われる。しかし、この意味を知らなくても、1、2、3 の文章から消去法で解くことはできる。また、この問題は上位群で 2 を中位群と下位群では 3 を選んだ者が一番多い。少し常識的に考えれば 3 を選択することはない。2 を選択した者は 2 行目の He takes her ~ の her が誰のことを指しているのか聞き取れていない。この問題は take care of という表現を知らないために、正答が分からず問題を解くことができなかった者が多いと思われる。

7 R T で L T より最も正解率が伸びた問題

ここでは R T で L T よりも正解率の伸び見た問題の結果を比較しながら分析する。

7.1 Part 1 で R T で L T より最も正解率が伸びた問題

例 4

A: I'd like this dress dry-cleaned.

B: Sure

A: When can I pick it up?

B: (4 が正解)

- 回答 .1. It's \$10. 2. It's a nice dress.
3. Yesterday 4. Tomorrow afternoon.

Table 7 第2回 No.1の問題 LTとRTの比較

	全体	上位群	中位群	下位群
LT 1	12.5 (14)	6.7 (2)	16.7 (5)	13.3 (4)
LT 2	22.3 (25)	0.0 (0)	30.0 (9)	40.0 (12)
LT 3	22.3 (25)	20.0 (6)	23.3 (7)	16.7 (5)
LT 4 正解	40.2 (45)	70.0 (21)	30.0 (9)	30.0 (9)
LT 無回答	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
RT 1	8.0 (9)	3.3 (1)	0.0 (0)	16.7 (5)
RT 2	5.4 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	16.7 (5)
RT 3	10.7 (12)	6.7 (2)	20.0 (6)	3.3 (1)
RT 4 正解	75.0 (84)	86.7 (26)	80.0 (24)	63.3 (19)
RT 無回答	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
正解 RT - LT	34.8 (39)	16.7 (5)	50.0 (15)	33.3 (10)

LT 受験者総数 109名 欠席者3名 上位群1名欠席

RT 受験者総数 111名 上位群1名欠席 LT RTとも全体の分母は112名
各群の分母は30名とする 数字は% ()は人数を表している。

この問題では中位群と下位群が大幅に伸びている。LTでは中位群で30%(9名)、下位群では40%(12名)が2を選択していた。このことからAの始めの発言が聞き取れなかったというよりは、Aの2度目の発言When can I pick it up?という発言が聞き取れなかったことになる。なぜならこれが聞き取れれば、4だけしか正解はないし、When ~?という形式さえ分かれば3と4に答えが限定できるからである。このことから基本的なWhen ~?というパターンでさえ、中位群や下位群において聞き取れない者が多いことが分かる。また、RTにおいて下位群に1と2を選んだものがそれぞれ16.7%(5名)もいることは、この基本的な質問さえ文字で見ても理解できないか、あるいは本気で取り組んでいない可能性がある。

7.2 Part 2でRTでLTより最も正解率が伸びた問題

- 例5 A: Excuse me. How much is this red silk blouse?
B: It's \$120.
A: Do you have any cheaper silk blouse?
B: Yes, we do. The blouses on the shelf are all on sale.
Question: What costs \$120? (4が正解)
回答 1. The cheaper blouses 2. The blouses on sale
3. The silk blouses on the shelf 4. The red silk blouse

Table 8 第8回 No.5の問題 LTとRTの比較

	全体	上位群	中位群	下位群
LT 1	25.0 (28)	16.7 (5)	30.0 (9)	23.3 (7)
LT 2	15.2 (17)	6.7 (2)	23.3 (7)	16.7 (5)
LT 3	20.5 (23)	16.7 (5)	20.0 (6)	30.0 (9)
LT 4 正解	33.0 (37)	53.3 (16)	20.0 (6)	26.7 (8)
LT 無回答	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
RT 1	6.3 (7)	0.0 (0)	6.7 (2)	13.3 (4)
RT 2	10.7 (12)	13.3 (4)	6.7 (2)	10.0 (3)
RT 3	14.3 (16)	6.7 (2)	10.0 (3)	13.3 (4)
RT 4 正解	68.8 (77)	80.0 (24)	76.7 (23)	63.3 (19)
RT 無回答	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
正解 RT - LT	35.8 (40)	26.7 (8)	56.7 (17)	36.6 (11)

LT 受験者総数 105名 欠席者7名(上位群2名、中位群2名、下位群1名欠席)

R T 受験者総数 112 名 L T、R Tとも全体の分母は 112 名
各群の分母は 30 名とする。 数字は% ()は人数を表している。

この問題は質問が理解できて、1 行目と 2 行目が分かればそれで解くことができる問題である。正解は中位群が一番伸びている。このことは、L Tにおいて中位群と下位群では質問が理解できていないか、1 行目と 2 行目が聞き取れなかったどちらかであると思われる。

7. 3 Part 3 において R T で L T より最も正解率が伸びた問題

例 6 Paul usually arrives for appointment early, but yesterday he didn't. He wanted to be at his friend's house by eleven o'clock. However, the map his friend had drawn for him was so unclear that Paul couldn't understand it, so he got lost. Eventually, Paul asked a police officer for help

Question: Why was Paul late yesterday? (3 が正解)

回答 1. He didn't know the correct time. 2. He had a problem with the police.
3. He couldn't read his friend's map. 4. He is often late for appointment.

Table 9 第 5 回 No.10 の問題 L T と R T との比較

	全 体	上位群	中位群	下位群
LT 1	21.4 (24)	23.3 (7)	23.3 (7)	20.0 (6)
LT 2	30.4 (34)	26.7 (8)	23.3 (7)	40.0 (12)
LT 3 正解	29.5 (33)	33.3 (10)	30.0 (9)	23.3 (7)
LT 4	16.1 (18)	13.3 (4)	20.0 (6)	13.3 (4)
LT 無回答	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
RT 1	8.9 (10)	3.3 (1)	10.0 (1)	16.7 (5)
RT 2	17.9 (20)	10.0 (3)	16.7 (5)	23.3 (7)
RT 3 正解	61.6 (69)	83.3 (25)	56.7 (17)	46.7 (14)
RT 4	8.9 (10)	0.0 (0)	13.3 (4)	10.0 (3)
RT 無回答	1.8 (2)	3.3 (1)	3.3 (1)	0.0 (0)
正解 RT - LT	32.1 (36)	50.0 (15)	26.7 (8)	23.4 (7)

L T 受験者総数 109 名 欠席者 3 名 上位群 1 名、中位群 1 名、下位群 1 名が欠席

R T 受験者総数 111 名 下位群 1 名が欠席 L T、R Tとも全体の分母は 112 名
各群の分母は 30 名とする。 数字は% ()は人数を表している。

この問題は 2 行目の However, the map から 3 行目の so he got lost までを理解しないと解くことができない問題である。L Tでは、正答率は上位群 33.3% (10 名)、中位群 30.0%(9 名)、下位群 23.3%(7 名)となっていて上位群と下位群の正解率の差が少ない。ところが、R Tでは、正答率は上位群で 83.3% (25 名)、中位群で 56.7%(17 名)、下位群で 46.7%(14 名)と大きな差がついている。これは中位群と下位群の中には、文章を見ても、2 行目の the map から始まる文章が関係代名詞が省略されている文章であるために、文章が複雑であり、この文章の中の、the map was so unclear という情報を読み取ることができなかつた者が多くいたためであると思われる。

8 R T が L T と比べて伸びなかつた問題

ここでは R T が L T と比べて伸びなかつた問題を提示して、その結果を分析する。

8. 1 Part 1 において R T が L T と比べて伸びなかつた問題

例 7 A: Are you still studying?
B: Yes, I have an exam tomorrow.
A: Don't stay up too late.
B: () (3 が正解)

- 回答 1. You're very sorry. 2. I won't try.
 3. I'll try not to. 4. You should study.

Table 10 第4回 No.1の問題 LTとRTとの比較

	全体	上位群	中位群	下位群
LT 1	25.9 (29)	16.7 (5)	33.3 (10)	33.3 (10)
LT 2	30.4 (34)	33.3 (10)	23.3 (7)	16.7 (5)
LT 3 正解	27.7 (31)	33.3 (10)	23.3 (7)	36.7 (11)
LT 4	13.4 (15)	16.7 (5)	20.0 (6)	10.0 (3)
LT 無回答	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
RT 1	25.0 (28)	23.3 (7)	26.7 (8)	30.0 (9)
RT 2	30.4 (34)	36.7 (11)	33.3 (10)	26.7 (8)
RT 3 正解	22.3 (25)	30.0 (9)	10.0 (3)	23.3 (7)
RT 4	16.1 (18)	6.7 (2)	23.3 (7)	16.7 (5)
RT 無回答	3.6 (4)	3.3 (1)	6.7 (2)	0.0 (0)
正解 RT - LT	- 5.2 (-6)	- 3.3 (-1)	- 13.3 (-4)	- 13.4(-4)

LT 受験者総数 109 名 欠席 3 名 下位群 1 名欠席

RT 受験者総数 109 名 欠席 3 名 下位群 1 名欠席 LT、RTとも全体の分母は 112 名
 数各群の分母は 30 名とする。 数字は% () は人数を表している。

この問題の正解率で特徴的なことはLTよりもRTの方が、上位群(- 3.3%)、中位群(- 13.3%)、下位群(- 13.4)と悪くなっている点である。この問題はAのDon't stay up late.の「夜更かしをしないで」という意味が分かり、その応答として「そうしないようにするよ」という答えから3番を選択するようになる。RTで、この問題を文字で見ても解けないということは、stay up lateという語句を知らないか、その答え方が分からなかったかどちらかであるだろう。上位群で2のI won't tryを選択している者がRTで36.7%(11名)もいるということは、答え方として2のI won't try.と3のI'll try not toの意味の違いが分からなかった者がいると予測できる。

8.2 Part2においてRTがLTと比べて伸びなかった問題

- 例8 A: Do you have any stamps, Jane?
 B: No, I'm sorry, Joe. I've used them all.
 A: You write a lot of letters, don't you?
 B: Yes, especially at Christmas time.
 Question: Why is Jane sorry? (3が正解)

- 回答 1. She wrote too many letters. 2. She used all of Joe's stamps.
 3. She has no stamps to give Joe. 3. It's Christmas time.

Table 11 第6回 No.5の問題 LTとRTとの比較

	全体	上位群	中位群	下位群
LT 1	15.2 (17)	20.0 (6)	13.3 (4)	16.7 (5)
LT 2	36.6 (41)	33.3 (10)	33.3 (10)	33.3 (10)
LT 3 正解	28.6 (32)	33.3 (10)	33.3 (10)	20.0 (6)
LT 4	17.0 (19)	13.3 (4)	16.7 (5)	23.3 (7)
LT 無回答	0.0 (0)	0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
RT 1	7.1 (8)	0.0 (0)	6.7 (2)	10.0 (3)
RT 2	58.9 (66)	60.0 (18)	53.3 (16)	53.3 (16)
RT 3 正解	24.1 (27)	36.7 (11)	33.3 (10)	13.3 (4)
RT 4	7.1 (8)	0.0 (0)	6.7 (2)	16.7 (5)
RT 無回答	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
正解 RT - LT	- 4.5 (-5)	3.3 (1)	0 (0)	- 6.7 (-2)

LT 受験者総数 109 名 欠席者 3 名 中位群 1 名欠席 下位群 2 名欠席
 RT 受験者総数 109 名 欠席者 3 名 上位群 1 名欠席 下位群 2 名欠席
 LT、RTとも全体の分母は 112 名 各群の分母は 30 名とする。
 数字は% ()は人数を表している。

この問題は B の Jane が I've used them all.と述べているので、自分の切手を使ったのであって A である Joe の切手を使ったのではない。そのことが理解できれば解くことが出来る問題である。2 を選択したものが中位群と下位群では RT の方では 53.3%(16 名)、53.3%(16 名)と LT よりも増えている。問題で Why is Jane sorry?と問われて、思わず Jane が何か悪いことをしたと思い 2 と答えた者もいると思われる。この問題も全体では RT の正答率が LT のそれよりも少し悪い。

8.3 Part3 において RT が LT と比べて伸びなかった問題

例9 San Francisco is one of the most popular spots in the United States. The weather is often surprisingly cold in the summer and hotel and restaurant prices can be quite high, but there are many fun places to go. Visitors like to ride the cable cars, but they are often too crowded and people have to wait a long time to get on one. However, the city's wonderful parks and museums are well worth a visit.

Question: What does the speaker like about San Francisco? (4 が正解)

- 回答 1. The weather in summer 2. The convenient cable cars
 3. The reasonable prices 4. The city's excellent parks

Table 12 第4回 No.8 の問題 LT と RT との比較

	全 体	上位群	中位群	下位群
LT 1	29.5 (33)	10.0 (3)	36.7 (11)	43.3 (13)
LT 2	18.8 (21)	13.3 (4)	16.7 (5)	23.3 (7)
LT 3	17.9 (20)	20.0 (6)	26.7 (8)	6.7 (2)
LT 4 正解	31.3 (35)	56.7 (17)	20.0 (6)	23.3 (7)
LT 無回答	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
RT 1	22.3 (25)	20.0 (6)	13.3 (4)	33.3 (10)
RT 2	29.5 (33)	36.7 (11)	30.0 (9)	23.3 (7)
RT 3	21.4 (24)	20.0 (6)	16.7 (5)	26.7 (8)
RT 4 正解	22.3 (25)	20.0 (6)	40.0 (12)	13.3 (4)
RT 無回答	1.8 (2)	3.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)
正解 RT - LT	- 9.0 (-10)	- 36.7 (-11)	20.0 (6)	- 10.0 (-3)

LT 受験者総数 109 名 欠席 3 名 下位群 1 名欠席
 RT 受験者総数 109 名 欠席 3 名 下位群 1 名欠席 LT、RTとも全体の分母は 112 名
 各群の分母は 30 名とする。 数字は% ()は人数を表している。

この問題は問題文の下から 2 行目の However からの文章が理解できれば回答できる。しかし回答 4 では excellent という単語が使ってある。全体では LT よりも RT が 9.0%悪くなっている。上位群と下位群で RT の方が LT より悪くなっている一方で、中位群では良くなっている。また上位群で RT の方が LT よりも - 36.7%と正答率が悪くなっている。上位群の RT では 2 を選択した者が多い。問題文では Visitors like to ride the cable cars と述べてあるが、すぐその後で but they are often too crowded and people have to wait a long time to get on one.と否定的な文章が続いている。この箇所が読み取れていない者が多いと思われる。サンフランシスコはケーブルカーが有名であり、そのことの思いこみから思わず 4 を選択した可能性がある。

9 リスニングテスト (LT)、リーディングテスト (RT) の評価と考察

9.1 LT について

LTとしては英検準2級程度の問題をしてきた。上位群では8回の平均点が6.01と適度な問題であったが、中位群では4.60、下位群では3.48となっていて、中位群と下位群に位置する学生には難しく感じたものと思われる。LTについて問題を解くことができなかったのは7.1、7.2、7.3の分析でも述べたように、英語が聞き取れないというよりは、英単語や表現をしらないためにできなかったものと思われる。

9.2 LTとRTの成績の差

英語検定試験準2級程度のLTとRTを2年生の後期から始めた。RTは同じ問題を文字に直してLTの2ヶ月遅れで始め、LTとRT交互に実施した。同じ問題を文字に直してRTとして実施したのは、LTでは単語を聞きとることができなくても、文字を見れば分かる問題があるはずである。同じ問題を音声ですると、文字でするとどのような差が生まれてくるのかを比較し、その結果を分析すると、どのようなところが聞くことが困難であるかということが発見できるのではないかと予想をたてた。また、2ヶ月遅れてRTを実施したその理由は、LTの直後にRTを実施すると問題そのものを覚えている可能性があると思われるためである。

その結果予想したようにRTがLTよりも伸びることが多かった。しかし子細に分析してみると大きくRTの結果がLTよりも大きく伸びたものや、ほとんど伸びなかったものや、中にはむしろ少し下がった物があることが分かった。

さらに、上位群、中位群、下位群と伸びに著しい差があるものや、あまり差がないものなどさまざまであった。

これらの原因を推察すると、RTがLTに比べて伸びなかったのは、英単語や表現をしらなかったために、文字に直してあっても問題を解くことができなかったものや、9.1で述べたように文法的な理解ができていないためにできなかった問題があると思われる。

RTの方がLTよりも伸びたのは、比較的簡単な単語や表現など、音声では聞き逃したものが文字になってははっきりとしたものと思われる。しかし、どの単語や表現が文字になったために分かったのかという点については、このようなテスト形式からは発見することはできなかった。

また、RTでは2回目の試験より、試験の終了時間をそろえるために、LTで使った音声のCDをLTよりは小さな音で流して実施した。自分の読みのペースが乱されると不満を述べる者はなく、RTでもCDを使い音声を流すことに対して、好意的な反応であった。

10 結論

外国語として英語の音声を聞き取り理解するというリスニングの作業は、他の3技能に比べて、難しい作業である。吉田(1989)は英語のリスニングができるためには次の6項目の条件を満たす必要があると述べている。³

- 1) 英語の音が聞き取れなければならない。
- 2) 話し手の気持ちなどを理解するためには、イントネーション、話すスピード、話の間などの意味が分からなければならない。
- 3) 話し手が使っている語彙や環境用言の意味が分からなければならない。
- 4) 相手の言っていることが理解できるためには、その人が使っている文法や言語構造に関する知識が必要となる。
- 5) 話の文脈が理解できなければならない。
- 6) 話(し手)の文化的、社会的な背景が分からなければならない。

以上のことに加えて、リスニングテスト(LT)では普通の会話と違って聞き直すことができない。そのため、大変な集中力が必要とされる。何か考えていたりして、大切な箇所を少しでも聞き逃すと問題を解くことが出来ない。ところがリーディングテストでは読み直すこともできるし、ライティングではしばし考えることもできる。しかしリスニングテストはまるでスポーツのように一瞬の内に判断し決断しなければならない。それではどのようにすれば、リスニングの力を伸ばすことができるのだろうか。実施したテストの分析から次のことを提案したい。

10.1 基本的な単語・熟語の知識

実施したリスニングテスト(LT)から分かったことは、単語や熟語を理解していないために問題を解くことができない例が数多く見つかったことである。したがって、まずはしっかりと単語や熟語などの表現を理解することである。本校の学生を例に取れば、例1ではmindの用法、例2ではget dressed、例3ではtake care ofといった基本的な単語や熟語を知らない問題を解くことができない。さらに、例7のようにI'll try not to,とI won't tryの違いのような基本的な文法を知らないといけない。本校の学生の場合はこれがLTの改善策の一番であると思われる。

10.2 対話の人間関係と場面

LTではよく対話の問題がある。例1、例2、例4のようにAとBがどのような人間関係であり、どのような場面での会話であるかが分かれば問題は解きやすい。会話を聞いてすばやく人間関係と場面を想像するようにつとめることである。

10.3 見直し

LTとRTを比べると、あまりRTが伸びなかったものや中には下がった問題がある。このような問題の場合は是非見直しが必要である。自分がどこが聞き取れなかったのか、どの単語や表現を知らなかったのかを明確にしなければならない。

注

- 1 小池生夫編(1993)『英語のヒヤリングとその指導』にはリスニングが理解まで成立するメカニズムのモデルとして聴覚入力、予備的音声分析段階(フィルター装置と模倣性記憶装置)、中心的情報分析段階(予想・検証とリハーサル緩衝器)、長期記憶段階の4段階を挙げている。
- 2 竹蓋幸生・草ヶ谷順子(2004)『第2言語習得研究の現在』第8章「リスニング」に三ラウンドシステムという具体的で本格的なリスニングの方法が紹介されている。本校では週に1回程度、英語講読の授業の始めの7分程度を利用してする実施した小テストである。
- 3 吉田研作(1989)からリスニングが成立するための前提条件を引用した。これらの前提条件が欠けるとリスニングの行為は難しくなる。また、これには4技能と当事者の4つの選択権の関係述べられている。リスニングの場合は他の3技能と比べて「発音の選択権」「語彙の選択権」「文法の選択権」「表現方法の選択権」が全くなく、すべて話し手にゆだねられていることを述べている。例えば、スピーキングの場合はこの選択権がすべて話す側にあるため、話す方がはるかに容易である。したがって、スピーキングに比べてリスニングははるかに難しい行為である。

参考文献

- 1 小池生夫編(1993)『英語のヒヤリングとその指導』東京、大修館書店
- 2 白畑知彦・若林茂則・須田孝司(2004)『英語習得の「常識」「非常識」』東京、大修館書店
- 3 竹蓋幸生・草ヶ谷順子(2004)『第2言語習得研究の現在』第10章「リーディング」pp.143-160
東京、大修館書店
- 4 竹蓋幸生(1984)『ヒヤリングの行動科学』東京、研究社
- 5 吉田研作(1989)『英語リスニング上達の方法』東京、Japan Times